

“どんな場合もまず破損したらリペア修復を!”

～患者との信頼関係を崩さない修復物破折への対応とリペア処置について～

東京都開業 | 高橋 英登 先生

充填したコンポジットレジンや補綴物のリペア処置の1歯科医院あたりの月の平均症例数は約5症例ということが2012年の我々の調査で明らかになりました。

充填物や補綴物の破損は患者はもちろん、我々にとっても頭を悩ます治療後のトラブルの1つであり、患者との信頼関係を築く上でもその対処法が重要になってきます。そこで、今回は修復物破折への対応とリペア処置について紹介します。

井荻歯科医院 院長 東京都杉並区歯科医師会 会長



リペアとは？

万物壊れないものはありません。それは我々がセッティングした修復物も同じです。しかし、その歯冠修復物がひとたび破損すると審美性、機能性ともに損なわれ、対応いかんによっては患者との信頼関係を損ねることになります。そのため、前装冠やジャケット冠の破損は即日にリペア処置することが非常に重要になってきます。

1. 破損原因の特定とその後の処置

まずは、再生後、修復後の補綴物の再破損を防ぐには破損した原因の究明が第一です。

多くの場合、その原因是次のように大別されると考えます。まず1つは、原因の特定が比較的簡単な修復物自体の欠陥による破折や偶然の事故による破折（転倒や貝殻などの硬い物を噛んだ際の破折）です。

2つめは、原因究明が困難なもので咬合問題に関係する破損です。後者の場合は慎重な対応が求められます。

そして、原因の特定後、私はほとんどのケースではまずはリペアで対応するべきだと考えます。

後々、補綴物の再製作を行う場合でも、直ちに審美性と機能性が回復するリペアの処置をすることにより、不満を感じる患者は少ないと考えるからです。そのまま放置しないことが最も大切であり、リペア後、それでも患者が満足しない際には再生を選択するべきだと思います。

2. 使用材料と手順について

使用材料

リペア修復とは主に、破折面に韌性の高い材料（硬質レジンやコンポジットレジン）を接着させることです。そして、口腔内のリペアでは修復物の破折片の再使用よりもフィルテック™ シュープリーム ウルトラ コンポジットレジンのようなコンポジットレジンの築盛による対応が比率としては圧倒的に多いでしょう。

また、金属色が露出している場合はオペーク性の高いレジンで下地を遮蔽することも忘れてはいけません。



※1 スコッチボンド™ ユニバーサル アドヒーブ

リペア処置の手順

1) 接着阻害因子の除去&接着表面積の拡大

マイクロエッチャーによるサンドブラスト処理がベストですが、もし、お持ちでない場合はダイアモンドバーで処理面を一層削除してください。これにより、唾液、沈着物のような接着阻害要因が除去できるのに加え、接着表面積の拡大が望めます。

2) 被着面の読みと前処理（プライマーの使用とレジンの選択）

被着面の読みとは材料的、色調的な識別を行うことです。材料的な読みとは被着体の種類を判別することでその処理方法は大きく3つのグループに分けられます。

- ①ポーセレン、コンポジットレジンのような歯冠色材料
- ②歯科用合金やジルコニア、アルミナなどの金属材料
- ③エナメル質、象牙質の歯質材料

従来は被着体を判別後、その被着体ごとにプライマーを用意し、塗り分けをする必要があったので非常に煩わしいものでした。今回3M ESPEから発売されたスコッチボンド™ ユニバーサル アドヒーブ（※1）は塗り分けや材料の識別を必要としないため臨床上非常に有用です。色調的な読みとは被着面の色を把握し、オペーク性のレジンの使用や、築盛するレジンのシェードを選択するためのものです。

3) ボンディング材の塗布とレジンの築盛

通常は被着面の解析、プライマーの塗布後、ボンディング材で濡れ性を高め、レジンの築盛を行います。もし、金属面が露出している場合はレジンの築盛前にマスキング材で色を遮蔽してください。

リペア処置は保険適応されるのでしょうか？

リペアは保険にも収載されており、破折面を削除、整理することによる補修形成料と、コンポジットレジン充填料、材料料であり、いずれも単純窩洞で算定します。保険診療ですので患者さんの負担も少なく、近年の接着技術の進歩によりリペアによる術後のトラブルもほとんどないので、積極的にリペアに挑戦してみてはいかがでしょうか。

スコッチボンド™ ユニバーサル アドヒーシブ^(※1)による 陶材焼付鋳造冠リペアの手順



※1 スコッチボンド™ ユニバーサル アドヒーシブ

1 術前



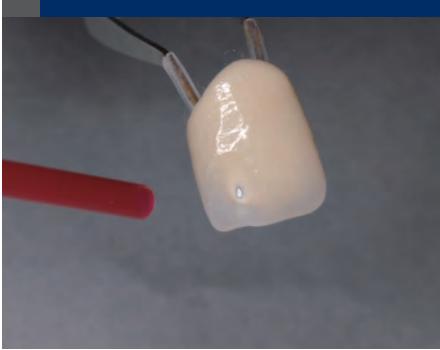
陶材が破折し、一部金属が露出しています。

2 接着阻害因子の除去・接着表面積の拡大



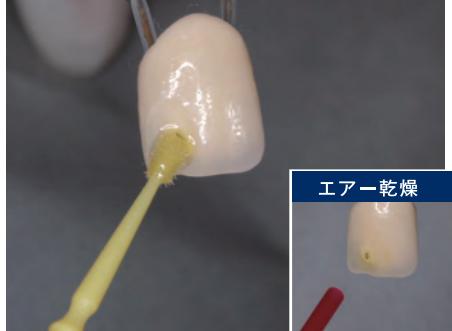
破折修復を行う表面をダイヤモンドバー やアルミニウムによるサンドブラスト処理によって粗面化します。また、マージン部分には幅1mmのベベルをつけます。

3 水洗・乾燥



水洗後、エアーで十分に乾燥します。

4 スコッチボンド™ ユニバーサル アドヒーシブの塗布



エアー乾燥

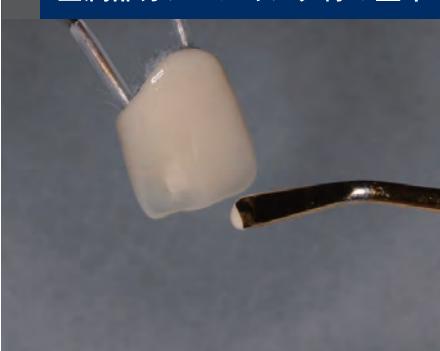
スコッチボンド™ ユニバーサル アドヒーシブ^(※1)を塗布し、20秒間処理します。その後、塗布面をゆるやかなエアーで、波を打っていたアドヒーシブが動かなくなるまで約5秒間乾燥します。

5 光照射



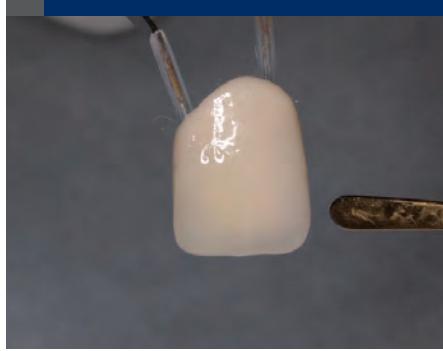
乾燥後、10秒間光照射します。

6 金属部分にマスキング材の塗布



適切な金属マスキング材で金属色を遮蔽します。
(金属面が露出していない場合はこのステップは不要です)

7 コンポジットレジン充填



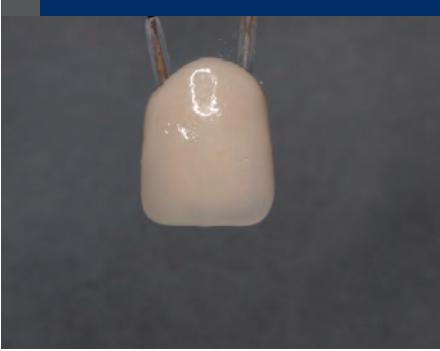
光重合型コンポジットレジンを用い充填し、コンポジットレジンの取扱説明書に従って光照射をします。

8 研磨



形態を整えた後、ソフレックス™などを用いて研磨します。

9 術後



審美的にも充分満足できる状態にリペアできます。

詳しい情報は… **Let's Access!**

3M ESPE 歯科用製品ホームページ

3M 歯科

<http://www.mmm.co.jp/hc/dental/>

検索

当事業部取扱製品のお問い合わせは

3M ESPE コールセンター

0120-332-329

※受付時間／9:00～17:00 月～金(土・日・祝を除く)

※フリーダイヤルが繋がらない場合は、

03-6409-3157をご利用ください。

3M ESPE

スリーエム ヘルスケア株式会社
歯科用製品事業部

Please Recycle. Printed in Japan.
Copyright © 2013 3M. All Rights Reserved.
DEN-999-AN(061303)PN